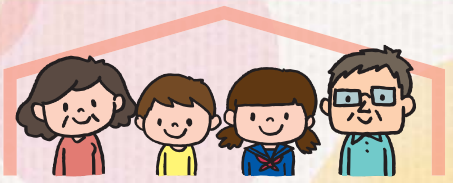
すみよし ひとよし! No.41

里親になってみませんか?

あたたかい家庭を待つ子どもたちがいます



大阪市には、さまざまな事情で実の親と離れて暮らしている子どもが約1,100人います。そんな子どもたちを各ご家庭で受け入れ、サポートを受けながら愛情を持って育ててくださるのが里親さんです。

子どもたちに、安心感のある居場所と健やかな成長を――。住吉区で里親として活動されている簸内さんご夫婦に、きっかけや子どもたちとの生活についてお話を伺いました。

簸内 里父 善治(ぜんじ)さん・里母 信子(のぶこ)さん

里親になられたきっかけを教えてください

研修に参加し制度の理念に共感「子どもたちのために」と決意

善治さん　10年近く前、ファミリーホーム（小規模住居型児童養育事業）で家庭養育に取り組む知人から、「里親をしてみないか」と声をかけられたことがきっかけです。

信子さん　3人の実子は既に成人済みで、親の介護も終えて一段落した頃でしたので、「これからは社会のために」と前向きに検討することに。とはいえ里親制度については知識ゼロの状態でしたので、まずは里親支援機関が実施する事前研修に参加。そこで改めて、家庭の温もりを知らない子どもたちがたくさんいる現状、そして受け皿となる養育家庭が不足している課題などを知ったのです。

善治さん　研修中や修了後も家族でよく話し合い、「1人でも多くの子どものために」という思いで里親登録を完了。不安な気持ちもありましたが、我が家は弟夫婦が同居しており、複数の大人で見守れることから決意しました。

子どもたちと、普段どのように過ごされていますか?

短期で預かる里親として活動中

信子さん　現在は2～3カ月ごとに、10日～2週間程度の一時保護を中心とした里親活動を行なっています。環境が許す我が家では、主にきょうだいを2人同時に預かります。学区内では里親が見つからないことが多く、受け入れ中は学校に通えず終日を家で過ごすため、遊び道具を揃えて退屈しないようにしています。食事の準備や片付け、掃除などをしてもらう度にお手伝い表にシールを貼って、シールが貯まったら好きなお菓子をあげるなど、なるべく楽しく、達成後の喜びや自信を育んでもらうようにも心がけています。

善治さん　入浴も大切なコミュニケーションの時間。低学年の子は、同性の大人が一緒にお風呂に入り、ケガの有無や体調をチェックするようにしています。就寝前は1日の楽しかったことを聞きながら添い寝すると、子どもたちは安心してぐっすり。施設では普段大人と一緒に寝ることがないため、貴重なひと時のようです。

施設では味わえない家庭の温もりを

善治さん　子どもたちは、児童養護施設等で一定の期間、規則正しい生活を経験してからやってきます。食事の好き嫌いを聞いても「なんでも食べます」と気を遣ったり、手をあげて「お替わりしていいですか」と聞いたり、うちに来た子はとても行儀のよい子ばかり。規則を守ることはもちろん大切ですが、我が家ではなるべく普通の家庭のように気兼ねなく過ごしてほしいため、「好きなだけ食べていいよ、嫌いなものは無理に食べなくていいからね」と言っています。時には「いつまた食べられなくなるか分からないから」と言いながらたくさんお替わりする子がいて、さまざまな家庭の背景事情を思うと胸が痛むこともあります。

信子さん　あるとき預かった姉妹ですが、初日に少し目を離した隙に姿が消えてしまい…。その後、裸足で門から出ようとしているところを見つけたのですが、「家に帰りたい」と号泣。これは困ったと、日頃からこまめに連携してくださる施設の担当者さんに来てもらい、子どもたちの思いを聞いてもらいました。よく話し合った結果そのまま我が家に留まることに。それからは徐々に打ち解けてくれて、2週間後の最終日に今度は「帰りたくない…」と泣いてくれたのが印象的でした。

「どうか幸せに…」と送り出す日

信子さん　みんなキラキラとした素敵な名前をつけてもらって希望にあふれて生まれてきたはずなのに、うちに来る時にはどの子も複雑な家庭事情を抱えています。そんな子どもたちが短い期間ですが少しでも安らげるように、そして成長して家庭を築く際には負の連鎖を起こさないように、そんな思いで取り組んでいます。

善治さん　里親を始めた2016年から、預かった子どもは20数名。まだまだ経験不足ですが、それでも子どもたちとの思い出はひとつひとつが宝物です。最終日にはみんな「ありがとう、楽しかったからまた来たい」と言ってくれますが、嬉しいな、また会いたいなと思うと同時に、「もう来なくていいように、たくさん幸せになるんだよ」と、送り出す子どもたちの幸せを願うばかりです。

里親になりたいと考えている方にメッセージをどうぞ

疑問や不安はあまり考え込まずまずは「mikata」まで相談を

善治さん　里親活動への動機は皆さんそれぞれかと思います。また、種類も養子縁組里親、養育里親、週末里親などさまざま。悩まれたら、まずは里親支援機関（住吉区は下記の南部里親支援機関mikata）へ相談してください。里親相談会などへ行かれるのもよいかと思います。

信子さん　まずは、ご自身が現状できることから始めるのがいいかと思います。実は私たちも「まずは短期里親から始めて段階的に」と考えていましたが、短期里親を必要とする子どもたちが身近にたくさんいる現状に直面し、短期里親の意義を知ったため、しばらくはこのまま続けたいと考えています。我々のように活動しながら分かることもたくさん。子どもの命を預かる里親ですから責任が伴うのは大前提ですが、あまり重く捉えすぎずに一歩踏み出してみてください。

こどもと里親のミカタになりたい

- 里親制度について知りたい方
- 里親になるための手続きについて知りたい方
- 里親の種類について知りたい方　など

お気軽にお問い合わせください

里親相談会

「里親ってなんだろう?」「私も里親になれるかな?」と思われた方は、ぜひ相談会にお越しください。

と　き　10月31日（月）13:00～16:00

ところ　区役所1階 南側エレベーターホール

社会福祉法人 大阪福祉事業財団
大阪市南部里親支援機関 mikata(みかた)
TEL 6718-4078　FAX 6718-4079
mikata.n@sumirenyuujiin.com
〒546-0012　東住吉区中野3-6-15
サンソレイユ中野202号室